

物性研究・電子版の記念すべき第一号をお届けいたします。様々な外部事情によって、このような新しい形で出発をすることになりました。

この変身をとげる間に色々な意見や激励を下さった方々、電子版に原稿を早速投稿して下さった方々、そしてこの第一号を今読んでくださっている貴方に御礼を申し上げます。

さて、研究をしていく上で、怒られることも承知の上で愚問やら妄想やらを含めて自由に議論できる機会はとても大切だと思います。しかし、口頭の議論には何か欠けていると感じることも確かです。研究の議論でもりあがると、その話題は論文になっているか？、プレプリントがどこかにでているか？とよく聞いたりします。なんでも口頭で質問すれば良いのですが、なにかしらの欠乏感が論文やプレプリントを要求しているようです。おそらく、論文など紙にかかれた文章、図や数式を通じて、興味のわいた話題を自分のペースで批判的に咀嚼したいという欲が湧いてくるということなのだろうと思います。

とはいうものの、論文は、江戸歌舞伎荒事風とでも言いますか、マッチョなスタイルになりがちで、例えば理論仮定の背後にある震えるココロのようなものはなかなか見えてきません(ややずれるかもしれませんが、茨木のり子の詩にある「あらゆる仕事 すべてのいい仕事の核には 震える弱いアンテナが隠されている」というやつに近いものでしょうか)。

次代のいい仕事のヒントは、この震えのなかにあるのではないかと思うことがあります。論文という体裁をとりながら、こうした震えを見事に開陳して、後進に大きな影響を及ぼしてきた記事が物性研究には多くあると聞きます(実際に私個人も影響を受けた記事が複数あります)。物性研究はそのような場として機能してきたということなのでしょう。この物性研究・電子版が引続き、おおらかで刺激的な場となりますように。

春日湯